

令和 7 年度図書館事業評価結果について

河内長野市立図書館（図書館）では、図書館法第 7 条の 3 に基づき、図書館サービスその他図書館運営の維持・向上を図るため平成 26 年度から図書館事業評価を行っています。令和 7 年度の図書館事業評価結果について、取りまとめましたので公表します。

図書館は、令和 6 年 3 月 16 日付け河内長野市図書館協議会（図書館協議会）の答申を受け「河内長野市立図書館の事業の実施等に関する基本的な運営の方針」（基本的運営方針）を令和 6 年 3 月 31 日付けで決めました。基本的運営方針に基づき策定した事業計画及び指標の達成状況を分析し、今後の課題・取組等について図書館により自己点検・評価を実施します。また、この自己点検・評価を踏まえ図書館協議会委員から外部評価を得ます。その結果を「河内長野市立図書館事業評価」として公表します。

1. 点検及び評価の目的

- ・ 基本的運営方針に基づいた運営がなされていることを確保し、事業水準の維持・向上を図ります。

2. 評価の方法等

基本的運営方針に基づき策定した事業計画及び指標の達成状況を分析し、指標に係る数値目標により 3 段階の評価基準で評価を実施します。また、図書館協議会委員から外部評価を得ます。

実績は 12 月末現在の数値に 3 月末までの推計を含めて算出します。

- ・ 評価基準（端数切捨て）
A…達成した（90%以上） B…ほぼ達成した（89%～61%）
C…達成できなかった（60%以下）

令和7年度河内長野市立図書館事業計画 主な取組実績及び自己点検

事業計画	取組目標	主な取組実績	単位	前年度末実績	12月末実績	3月末実績 (推計)	自己点検	今後の課題・取組等
基本的運営方針1 読書活動を推進し、図書館を活用することで市民自らの課題が解決できる情報拠点として、生涯学ぶことのできる環境を整えます。								
(1)市民の資料要求に応え、さらにその要求を広め高めて行くため、良質な資料を収集・提供します。	①図書館の蔵書の充実	①図書館の1年間の受入冊数(図書館)	冊	9,131	7,817	9,311	図書館の図書の受入冊数は、単価の上昇の影響で増えない状況である。高齢化の進展や、市内のバス路線の再編などの理由により利用者数や市民1人当たりの貸出冊数は減少傾向となった。	購入する資料を厳選するとともに、相互貸借も活用しながら、利用者の求める資料を提供できるよう取組む。 今後も、図書館に来館しづらい高齢者や障がい者を含めて、来館・非来館を問わずどのような方でも使いやすい図書館サービスの充実に努める。
	②図書館利用の促進	②図書館利用者数	人	467,402	348,524	457,405		
	③魅力のある資料の収集	③市民1人当たりの貸出冊数	冊	7.2	5.3	7.0		
(2)市内全域への図書館サービス提供のため、図書館、公民館図書室や自動車文庫等の全体の蔵書構成を考えた資料収集を行います。	①市内全域への図書館サービス	図書館と公民館図書室との相互貸借冊数	冊	50,197	37,767	50,230	公民館図書室8ヶ所、自動車文庫ステーション23ヶ所のサービスポイントを活用し、利用者の利便性の向上と資料提供に努めた。例年とほぼ変わらない相互貸借冊数となっている。また、1冊あたりの資料費が上がっており、受入冊数の増加は難しい状況である。	予約資料を最寄りの公民館図書室や自動車文庫サービスポイントを利用して受け取るなど、図書館ネットワークが有効に活用されており、今後も市内全域へのサービス維持に努める。 図書館と公民館図書室、自動車文庫のネットワークを生かして、市内全域にサービスできるよう地域の利用者のニーズに合った資料整備を行う。
	②公民館図書室の蔵書の充実	公民館図書室の1年間の受入冊数	冊	1,094	888	1,020		
	③自動車文庫の蔵書の充実	自動車文庫の1年間の受入冊数	冊	498	358	492		
(3)市民の身近な施設としてのサービス機能の充実を図るため、自動貸出機の活用や、利用者カードとICカードの連携など利便性の向上に努めます。	①自動貸出機の利用促進	自動貸出機による貸出冊数割合	%	20.3	19.9	20.0	自動貸出機は図書館での貸出しの2割程度を支えており、活用できた。 利用者カードと交通系ICカードとの連携は伸びていない。 オンライン利用者登録は、広報誌で紹介したことから申し込みが増えた。	自動貸出機の利用に不慣れな利用者に対して、サポートしながら利用促進に努める。 利用者が利用者カードやスマートフォン上の利用者カード、交通系ICカード、マイナンバーカードなど、さまざまな方法で資料を借りられるよう、今後も利便性の向上を図る。 来館せずに利用者登録ができる仕組みについて、今後も機会を捉えてPRし、利用促進を図る。
	②利用者カードと交通系ICカード連携機能の利用促進	交通系ICカード連携機能利用人数(累計)	人	80	86	88		
	③オンライン利用者登録の利用促進	利用者カード発行件数	件	13	47	65		

令和7年度河内長野市立図書館事業計画 主な取組実績及び自己点検

事業計画	取組目標	主な取組実績	単位	前年度末実績	12月末実績	3月末実績 (推計)	自己点検	今後の課題・取組等
(4)図書館資料の利用を促進するため、生活に役立つ図書館講座や児童を対象とした利用者教育講座(資料の探し方等)を開催します。また、利用者の知的好奇心を刺激するような、多様なテーマに沿った展示を行い図書館資料の活用につなげます。	①課題解決に役立つ講座の開催	講座開催数	回	4	4	4	小学生に図書館での資料の探し方を教える「図書館マスター」2講座(小学3～6年生対象)、図書館講座2講座(英語多読)を開催した。図書館マスターについては、紹介する書籍を新しく出版された書籍に入れ替えるなど内容を見直した。一般向け、児童向け、ヤング向けなどコーナー別の各テーマ展示や、こもれびミニ展示、物故者展示、古文書講座と連携した展示などを行った。また、他課の講座・イベントや啓発活動等と連携した行政展示は他課から多くの依頼を受けた。	図書館マスターは、今後も内容の改訂を行いながら継続して実施する。図書館講座(英語多読)については、資料の充実を図りながら、これから始める方にも分かりやすい内容を目指す。今後も図書館資料の利用促進のため、さまざまな切り口の展示を継続して行う。
		参加者数	人	44	49	49		
	②図書館資料を活用した展示	テーマ別展示数	回	96	66	83		

令和7年度河内長野市立図書館事業計画 主な取組実績及び自己点検

事業計画	取組目標	主な取組実績	単位	前年度末実績	12月末実績	3月末実績 (推計)	自己点検	今後の課題・取組等
基本的運営方針2 ささまざまな手法による読書推進やレファレンスサービスの充実、ICTの活用により、豊富な資料・情報と市民を結びます。								
(5)子どもたちの読書活動の推進を図るため、ボランティア等と連携し、おはなし会などを実施します。	①定期的なおはなし会等の子ども向け行事の実施	おはなし会等開催回数	回	78	61	77	おはなし会、春秋のおはなしウォッチング、クリスマス会などを定期的に開催できた。参加者が低年齢化するなど、変化してきている。	参加者に応じたプログラムが提供できるよう、資料の整備、人材の育成をすすめる。
		おはなし会等参加者数	人	871	723	883		
(6)地域文庫、幼稚園・保育所及び放課後児童会等への団体貸出の利用を促進するため、資料集配送を継続実施します。	①団体貸出の利用促進	資料配送件数	件	387	313	408	放課後児童会の利用は増え続けており、資料配送件数・冊数とも増加した。資料の配送を通じて、放課後児童会や地域の幼保教育施設に司書が選定した本を送るバック貸出を行い、子どもたちが読書に親しむ環境を整えることができた。	資料集配送には根強いニーズがあり、引き続き集配送を維持できるよう取組む。 また、放課後児童会や地域の幼保教育施設にバック貸出を行い、利用促進を図る。
		資料配送冊数	冊	14,666	12,364	15,601		
(7)インターネット端末席の設置や、メールマガジンの発信、レファレンスデータベースの公開などICTを活用した図書館サービス機能の充実を進めます。	①館内のインターネット利用環境の整備	インターネット・オンラインデータベース端末席利用者数	人	531	439	581	図書館内でインターネットやオンラインデータベースを使って調べものができる環境を整えた。レファレンスデータベースは新たな事例を登録し、利用者の希望する新着資料の案内を含むメールマガジンは毎月配信することができた。 電子図書館は、小学4～中学3年生に利用者IDを配付するとともに、読み放題パックを入れ替えるなど、利用促進することができた。	今後も図書館内でインターネットやオンラインデータベースを使い調べものしやすい環境を維持する。レファレンスデータベースへの新規事例の登録、過去の事例の修正を行い課題解決の支援に努める。メールマガジンも定期的に発信する。 電子図書館は、利用者IDの配付を継続するとともに、コンテンツを見直し、引き続き利用促進を図る。
	②インターネットを使った情報発信	レファレンスデータベースの公開件数	件	4	0	2		
		メールマガジン発信数	回	12	9	12		
	③電子書籍の利用促進	電子図書館ログイン数	件	26,395	17,097	22,468		

令和7年度河内長野市立図書館事業計画 主な取組実績及び自己点検

事業計画	取組目標	主な取組実績	単位	前年度末実績	12月末実績	3月末実績 (推計)	自己点検	今後の課題・取組等
基本的運営方針3 市民との協働を推進するとともに、交流の場として地域の活性化に寄与します。								
(8)ボランティア活動の充実を支援し協働を推進するため、読み聞かせボランティア講座やスキルアップ講座を実施します。	①ボランティアとの協働を推進	開催講座数	講座	3	1	3	児童サービス、障がい者サービスに関わるボランティアは安定して活動している。また高校生ボランティアも定員を超える応募があった。児童サービスのおはなしボランティア向けに初心者向け1講座、経験者向け2講座を開講した。	児童サービス、障がい者サービスのどちらもボランティアが安定して活動するために引き続き講座を開講する必要がある。継続的に担い手を育てる取組を行う。
			回	8	5	9		
		ボランティア活動のべ参加人数	人	543	417	556		
(9)生涯学習機会の拡大のため、他の公立図書館等との連携を図り、広域相互利用を実施して交流人口の拡大を進めます。	①広域相互利用の推進	14市町村広域登録者数	人	9,202	9,478	9,553	広域相互利用の登録者は全登録者の約17%となり、特に近隣市町村からの利用が多く、交流人口の拡大に寄与することができた。	市民の生涯学習機会を拡大するため、引続き14自治体(大阪市、東大阪市、八尾市、松原市、柏原市、羽曳野市、藤井寺市、富田林市、大阪狭山市、太子町、河南町、千早赤阪村、橋本市、五條市)と広域相互利用をすすめる。
(10)地域課題の解決に向けて、様々な分野で活動しているボランティア団体のチラシを配架することで情報発信を支援し、またボランティア活動への参加を促進して、地域活性化を図ります。	①ボランティア団体の情報発信を支援	社会福祉協議会主催事業等のチラシ設置数	件	98	99	132	河内長野市社会福祉協議会内のかわちながのボランティア・市民活動センターとの連携により、昨年度と同等の種類のチラシを設置できた。	かわちながのボランティア・市民活動センターとの連携を継続し、SDGs(持続可能な開発目標)17の目標に区分してチラシを配架することにより地域活動の意義を引き続き発信する。
(11)「音と映像コーナー」をリニューアルした、愛称「こもれび広場」を、講座やイベント等の開催により利用者同士が交流できる場所として活用します。	①「こもれび広場」の活用	講座・イベント等開催数	回	31	21	26	多言語えほんのひろば、多言語のおはなし会、英語多読ひろば、カフェふくろう、録音図書体験会、大人も楽しむ絵本の会などのほか、見学に来た府立長野高校の生徒との交流会で「こもれび広場」を活用した。	引き続きさまざまなイベント等で「こもれび広場」を活用するとともに、「こもれび広場」が交流の場であることが来館した利用者にわかりやすいような表示を設置する。

令和7年度河内長野市立図書館事業計画 主な取組実績及び自己点検

事業計画	取組目標	主な取組実績	単位	前年度末実績	12月末実績	3月末実績 (推計)	自己点検	今後の課題・取組等
基本的運営方針4 子どもたちに多様で豊かな読書環境や学習機会を提供するため、学校、地域、家庭との連携を図ります。								
(12)「河内長野市第4次子ども読書活動推進計画」(令和3年度～令和7年度)に基づき、関係機関との連携を図りながら子どもの読書活動を推進します。	①子どもたちの図書館利用の推進	0～18歳の図書館登録者率	%	44.9	45.3	46.0	団体貸出数は500冊程度減少し、図書館の利用者カードの登録率は46%である。昨年度に引き続き、市立小学校の新4年生・市立中学校の新1年生と転入の教員、府立長野高校、清教学園中学校・高等学校の生徒と教員に電子図書館のID・パスワードを配付した。えほんのひろばは昨年度と同等数開催した。	登録率は46%であるが、市立小学校4年生以上と中学校の児童・生徒は全員が電子図書館を利用できる状態にあり、「読み放題パック」などの電子書籍がよく利用されている。児童・生徒によく楽しまれているえほんのひろばも図書館の存在をアピールする機会になっている。児童数の減少に伴い、団体貸出は減少傾向であるが、調べ学習等で活用されている。言語力向上司書(学校司書)との情報交換を生かし、今後も資料収集に努める。
	②図書館と学校との連携	図書館から小中学校への団体貸出冊数	冊	3,509	2,686	3,026		
	③学校等での本に親しむ機会の提供	えほんのひろば開催日数	日	45	34	43		
基本的運営方針5 郷土歴史資料や行政資料の収集保存を進め、その普及啓発や活用を図ります。								
(13)郷土歴史資料の普及啓発や活用を図るため、関連講座及び資料の展示等を行うとともに保存のための撮影作業を行います。	①郷土歴史資料の活用	講座開催数	講座	4	3	4	郷土歴史資料を活用した、対面での古文書講座(初歩の初歩、入門編)、歴史講座を開催、YouTube歴史講座を配信することで、郷土歴史資料の普及啓発ができた。また、保存のための撮影も予定どおりできた。デジタルアーカイブでは、「三日市村限絵図」の公開ができた。 YouTube歴史講座については、広報誌でのPRとともに、近畿公共図書館協議会研究集会での事例発表を行った。	今後も講座の開催、YouTube歴史講座の配信を通じて、郷土歴史資料の普及啓発・活用を図る。保存のためのデジタル化も行い、順次デジタルアーカイブへの搭載を進める。
			コマ	8	5	8		
	②郷土歴史資料の撮影	令和7年度内に完了	-	完了	完了	完了		
	③デジタル化した古絵図の活用	アクセス数	件	79,775	54,738	72,984		

令和7年度河内長野市立図書館事業計画 主な取組実績及び自己点検

事業計画	取組目標	主な取組実績	単位	前年度末実績	12月末実績	3月末実績 (推計)	自己点検	今後の課題・取組等
基本的運営方針6 図書館の利用に困難がある市民に対して、利用しやすい環境づくりを進めます。								
(14) 図書館の利用に困難がある市民に対して、その理由や程度に応じた資料を量的拡充・質を向上させるとともに、誰もが利用しやすい環境づくりを進めます。	① 録音図書等の整備	録音図書の新規受入数	タイトル	24	33	40	録音図書は昨年度と同等数を新規に受入れた。(市広報、市議会だより、社協だよりのデージーへの切り替えがタイトル数に加わっている) 郵送利用が減っている一方で、来館して録音図書を借りる利用者は増えたため、録音図書の他館借受・ダウンロード数が増えた。 昨年度に引き続き、視覚障がい者サロンや福祉施設を訪問して対面朗読・代読を行い、イベント『さわる絵本・布の絵本大公開』や『出張えほんのひろば』の機会にマルチメディアデージー体験会を行ったり、こもれびひろばでの録音図書体験会を行った。福祉施設による図書館ツアー(施設見学)は今年度は申し込みがなかった。 パック貸出を利用する福祉施設が増えたため、団体貸出数が増えた。	録音図書の貸出や郵送貸出などのサービスは、新規の利用者もいるものの、まだ十分には知られていない。必要とする人にサービスが届けられるよう、録音図書体験会や視覚障がい者サロンへの訪問などを継続しつつ、さまざまな機会を通じてPRに努める。
			点	68	46	89		
	② 対面朗読、代読サービス(体験会含む)の実施	利用者数	人	70	52	66		
	③ サピエの活用	録音図書の他館借受・ダウンロード数	タイトル	889	860	1,147		
			点	889	868	1,157		
	④ 読書媒体や端末機器の情報入手に関する支援	マルチメディアデージー上映会・録音図書体験会等開催数	回	10	9	9		
	⑤ 郵送貸出サービスの実施	録音図書の郵送貸出件数	件	108	48	64		
			点	377	179	239		
	⑥ 福祉施設へのサービスの実施	福祉施設への団体貸出利用数	冊	1,528	1,650	2,168		
	⑦ 認知症にやさしい図書館の推進	まちかどカフェ(認知症カフェ)参加者数	人	81	54	72		

令和7年度河内長野市立図書館事業計画 主な取組実績及び自己点検

事業計画	取組目標	主な取組実績	単位	前年度末実績	12月末実績	3月末実績 (推計)	自己点検	今後の課題・取組等
基本的運営方針7 図書館司書及びその他の職員のコンプライアンスを推進するとともに、資質・能力の向上を図るため、継続的・計画的な研修を実施します。								
(15)図書館司書及びその他の職員の資質・能力の向上を図るため、継続的・計画的な研修を実施します。	①研修への参加	研修(館外)数	回	42	14	27	正職員だけではなく会計年度任用職員も、大阪公共図書館協会や大阪府立図書館等が主催する図書館員向けの研修にオンライン受講も含め積極的に参加し、職員のスキルアップを図ることができた。今年度は希望する内容の研修が減り、参加回数・人数とも減少した。利用者の職員対応満足度は、図書館アンケートにより5段階評価で平均4.4であった。	今後もオンラインも含めた研修への参加を積極的に進めていき、職員のスキルアップを図る。併せて職員の接遇の向上に努める。
		研修参加者数	人	90	32	53		
	②職員の接遇能力の向上	利用者の職員対応満足度	点	4.5	4.4	4.4		
基本的運営方針8 安全で安心な図書館の読書環境を維持します。								
(16)市民の理解と協力を得て図書館の良好な読書環境の維持、利用マナーの向上を図ります。	①良好な読書環境の維持	マナー向上啓発回数	回	4	3	4	落書き防止と水濡れ防止を呼びかけるチラシの配布(6月)、図書館入口にてポスターの掲示(6月・8月・2月)を行った。	今後も図書館資料を守り、利用者マナーの向上を図るための啓発活動を行う。
(17)危機管理マニュアルの整備、職員に対して防火訓練をはじめAED講習や防犯講習等を実施します。	①職員の危機管理能力の向上	防火訓練等実施回数	回	7	3	6	キックス・図書館合同の自衛消防訓練は施設の消防計画に基づき7/21(月・祝)と2/2(月)に実施。また、AEDの使用方法や心肺蘇生などの救命措置の実技を学ぶ救命講習は7/1(月)に大阪南消防組合職員を講師に迎えて実施。 なお、防犯講習は3/11(水)に実施予定、情報セキュリティ研修は2/6～3/19の期間中に動画視聴により全職員(会計年度任用職員含む)が受講予定。	関係機関と連携し、訓練や講習等を通じて危機管理能力の向上を図り、利用者及び職員の安全が確保できるよう努める。

事業評価 数値目標

指 標		4年度 (参考)	5年度 (参考)	6年度 (参考)	令和7年度実績及び自己評価 ※年度実績は、12月末現在の数値に3月末までの推計を含めて算出 A(90%以上) B(89~61%) C(60%以下)		
					目標値	実績値	
1年間の 受入れ冊数	購入冊数+寄 贈冊数(冊)	11,326	11,564	10,723	目標値	12,000	自己評価・・・A (目標に対し、 90.2% 達成)
					実績値	10,823	
図書館 利用者数	(人)	437,698	432,984	467,402	目標値	450,000	自己評価・・・A (目標に対し、 101.6% 達成)
					実績値	457,405	
市民一人当たりの 貸出冊数	貸出冊数÷人 口(冊)	7.3	7.1	7.2	目標値	8	自己評価・・・B (目標に対し、 87.5% 達成)
					実績値	7.0	
登録者率	登録者数÷人 口(%)	42.8	44.2	46.0	目標値	45	自己評価・・・A (目標に対し、 104.9% 達成)
					実績値	47.2	
広域登録者の 占める割合	広域登録者÷ 登録者(%)	16.5	16.7	16.8	目標値	17	自己評価・・・A (目標に対し、 100.0% 達成)
					実績値	17	
0～18歳の図書館 登録者率	0～18歳登録 者÷0～18歳 人口(%)	47.9	46.3	44.9	目標値	50	自己評価・・・A (目標に対し、 92.0% 達成)
					実績値	46.0	
学校との連携	図書館から小 中学校への団 体貸出冊数 (冊)	4,457	3,777	3,509	目標値	6,000	自己評価・・・C (目標に対し、 50.4% 達成)
					実績値	3,026	
利用者の職員対応 満足度	5段階評価	4.4	4.3	4.5	目標値	4以上	自己評価・・・A (目標に対し、 110.0% 達成)
					実績値	4.4	

図書館関係統計 (参考)

		令和元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度			
図書館、自動車文 庫、公民館の蔵書 冊数	3月31日現在 (冊)	505,277	504,802	508,672	510,611	512,103	512,877			
登録者数	3月31日現在 (人)	47,608	48,983	50,468	52,008	53,381	54,790			
貸出冊数	年度実績(冊)	961,936	767,209	792,927	841,941	802,965	801,826			
登録者1人当たり の貸出冊数	貸出冊数÷登 録者(冊)	20.2	15.7	15.7	16.1	15.0	14.6			
人口	3月31日現在 (人)	104,031	102,920	101,276	100,039	98,944	97,359			
職員数 (うち司書)	3月31日現在 (人)	26 (21)	32 (27)	31 (25)	30 (25)	31 (25)	30 (26)			
資料費	当該年度決算 見込(円)	27,055,769	24,884,216	23,817,933	23,936,243	24,149,159	23,630,236			
開館日数	3月31日現在 (日)	277	260	253	302	291	301			

令和7年度河内長野市立図書館事業計画に対する図書館協議会委員による外部評価

○基本的運営方針1 事業計画（3）について

・取組目標②「利用者カードと交通系 IC カード連携機能の利用促進」について、交通系 IC カード連携のみの利用人数が指標となっているのか。スマートフォンのバーコード表示やマイナンバーカード等、多様な連携方法が存在する。もっと PR して、利便性向上のための全体の取り組みとして実績を明らかにしてはどうか。

⇒純粋に交通系 IC カードのみの数字です。マイナンバーカードについては法改正によりかざすたびに暗証番号が必要という使いにくい仕様が変わってしまいました。また、スマートフォンで表示させたバーコードを窓口で見せる方も多いのですが、実際何人いるかという統計は出せない状況です。

○基本的運営方針2 事業計画（5）について

・取組目標①「定期的なおはなし会等の子ども向け行事の実施」について、参加者が低年齢化しているとのことであるが、その背景や理由をどう捉えているか。

⇒おはなし会の低年齢化については、小学生の来館が子どもの生活様式の変化により減っていることと、図書館の立地により1人で図書館に来る状況ではなく、保護者に連れられてくる低年齢の子どもが増えているという状況です。

○基本的運営方針2 事業計画（6）について

・取組目標①「団体貸出の利用促進」について、資料の集配送については根強いニーズがあり、特に学校での活用は通学範囲内で子どもが自ら本を借りて返す機会として非常に有益である。

○基本的運営方針4 事業計画（12）について

・取組目標②「図書館と学校との連携」について、学校への団体貸出冊数が減少しているが、児童数の減少や電子図書館の利用等、要因をどう分析しているか。紙の本の価値を伝えるため、学校との連携をどう深めていくか。

⇒児童生徒数の減少に伴う学級減が貸出冊数の減少に直結しています。また、調べ学習については1人1台端末の普及により、デジタル活用で解決できる分野が増えている側面もあります。今後は紙の本と電子図書館を両輪として、読書に親しめる環境づくりに努めてまいります。

・取組目標②「図書館と学校との連携」について、小中学校からの団体貸出冊数は、児童数に応じた機械的な制限ではなく、子どもが本に触れる機会を増やすために、もっと柔軟で合理的な運用（120%貸出など）を検討してほしい。

⇒基本は、団体貸出の枠内で行っておりますが、学校から依頼があればその枠を超えて貸出しをしています。また、学校支援用の図書は冊数無制限としています。

・取組目標②「図書館と学校との連携」について、学校図書館での取組みとして、本の「あらすじ」や「魅力のあるコメント」を書いておくと、子どもが本を選ぶヒントになるのではないかと。

○基本的運営方針6 事業計画（14）について

・取組目標①「録音図書等の整備」、③「サピエの活用」、⑥「福祉施設へのサービスの実施」について、障がい者サービスの利用が増えている要因をどう分析しているか。

⇒公共交通機関等の制約がある中で、図書館側から積極的にPRに出向いていることが功を奏していると考えています。加えて、録音図書担当によるきめ細やかなサポートや、放課後等デイサービスへのパック貸出の強化が、利用者の拡大に繋がっていると分析しております。

○基本的運営方針8 事業計画（16）について

・取組目標①「良好な読書環境の整備」について、落書き防止と水濡れ防止を呼びかけているが、図書館資料への落書きや切り取りといった事案についてはどのような状況か。

⇒統計上の数字はありませんが、毎日数冊単位で被害が確認されています。個別の注意喚起は行っていますが、手口が巧妙化するなど対応が非常に困難な状況が続いております。